

14歳から考えたい暴力

暴力は、時代や地域を問わず、あらゆる社会で見られます。殺人などの個人によるもの、暴動・革命といった集団によるもの、戦争や植民地主義、ジェノサイドなど、国家によるものなど、多様な暴力の構造や背景を分析します。

時代が進んでも、必ずしも暴力が減少しているわけではないこと、家族や恋人などの親密な関係で起きる暴力の多さと、それらが隠蔽されることの多さなど、興味深い考察が展開します。

。絶対ダメ。なはずなのに、なぜ暴力は起きてしまうのか？ 人間の負の側面から目を背けず、どう向き合うべきかを考えさせてくれる本です。



刊 菲利浦・ドワイヤー 著
訳 萩野哲矢
ソフトカバー
四六判
264ページ